

三井住友海上あいおい生命保険 「DXの戦い」、 老朽化やセキュリティ不安に どう立ち向かった？

DX推進が求められる今、三井住友海上あいおい生命保険も例外ではない。しかし、金融サービスに携わる企業として、変わらぬサービス提供と開発、法令への対応、セキュリティの確保といった取り組みも欠かせない。安易なクラウド活用では解決ならず、これがDXの推進を妨げる一因となっていた。利便性を確保したまま、自社のニーズに即した基盤を構築するため、三井住友海上あいおい生命保険がとった方法とは？

DX推進とセキュリティ強化の壁は「老朽化」「リソース確保」

三井住友海上あいおい生命保険は、MS&ADインシュアランスグループホールディングス(MS&ADホールディングス)全体の事業の中核を担う企業であり、生命保険事業を主に展開している。近年では中



三井住友海上あいおい生命保険
情報システム部 次長兼IT企画グループ長
古川 一貴 氏

期経営計画の基本戦略にDXを据え、社会課題の解決に貢献するヘルスケアサービスの実現をめざし、取り組みを進めている。

「DXを推進している当社では、法令対応や毎年行っている新商品の開発と並行して、デジタル活用にも取り組んでいます。情報システム部門としては、DXに関連する業務が今後さらに増え続ける見通しです」と話すのは、三井住友海上あいおい生命保険情報システム部 次長兼IT企画グループ長の古川一貴氏だ。

同社がDXとともに対応を進めているのが、セキュリティの堅ろう化である。これまで同社では、社内アクセスに限定して最低限のセキュリティを施し、運用してきた。

しかし近年では、セキュリティを堅ろうなものにするためには、外部からの侵入を防ぐだけでは不十分で、内部統制が非常に重要な役割を果たすことが明

らかになってきた。そこで広く普及してきたのが、すべての通信を疑う「ゼロトラスト」といった新しい概念である。

三井住友海上あいおい生命保険でも、金融庁との意見交換会にて内部不正対策の重要性が強調されるようになり、グループ全体でのセキュリティ強化に一層励む方針を定めた。

こうした新しいセキュリティ対策を導入するには、

先端技術を用いた新製品の活用が求められる。同社でも、最新技術を搭載した製品や、サードベンダー製の新製品の導入に関するニーズが高まっていた。しかし、これまで長きにわたり使用していたミドルウェア、基盤、フレームワークが老朽化しているため、新製品を適用できないという課題が浮かび上がってきた。

「セキュアに、便利に、手間なく」使える基盤をめざして

DX推進、セキュリティの堅ろう化に取り組む上では、システムの変更とそれに対応可能なリソースの確保が欠かせない。同社がこれらの試みに対応する中で、特に課題となっていたのはオンプレミス環境のシステムの変更に必要な負担がかかることだ。

MS&ADホールディングスのシステムの中核を担う企業が、MS&ADシステムズである。もちろん、三井住友海上あいおい生命保険のシステム更改もMS&ADシステムズが主に担当している。同社 生保システム第一部 MSA基盤運用グループにてマネージャーを務める菊地大輔氏は「従来は、さまざまなシステムの変更が異なるタイミングで発生しており、更改にかかる負荷も大きなものでした」と明かす。

古川氏は老朽化したシステムの変更に、多大なコストや期間がかかることに課題を感じていたという。

「解決につながるソリューションを検討していた際に、日立製作所の『EverFlex from Hitachi』を見つけ、活用すれば当社の負担を軽減させられると考えました」（古川氏）

「EverFlex from Hitachi」では、as a Service型のデータ基盤や仮想化基盤を始めとする、豊富なITプラットフォームとポートフォリオを柔軟に組み合わせ

せて活用できる。

「EverFlex from Hitachi」の中核を成すのが「ハードウェア基盤/仮想化基盤」である。同サービスでは、サーバやストレージなどのハードウェア、および仮想化基盤を従量料金プランで利用可能だ。オンプレミス同等のセキュアな基盤を、クラウドの利便性を備えた形で運用できる。

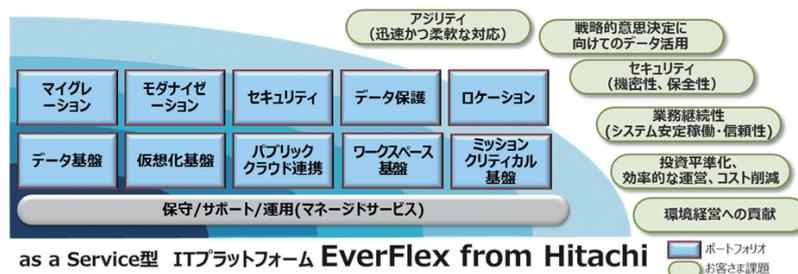
2020年、三井住友海上あいおい生命保険は、ビジネス分析ツールを更改する際の仮想化基盤として「EverFlex from Hitachi:ハードウェア基盤」を導入



MS&ADシステムズ
生保システム第一部 MSA基盤運用グループ マネージャー
菊地 大輔 氏

**EverFlex from Hitachi は、as a Service型のITプラットフォームを提供致します。
それにより、お客さまの課題の解決を支援していきます。**

EverFlex from Hitachi は、10のポートフォリオに属する多種多様なas a Service型のITプラットフォームソリューションをご用意しております。市場動向、お客様要望に応じて、ソリューションを組み合わせ提供致します。



入。その後は営業担当者が使用する勤怠システムの更改時に仮想マシンを追加した。2023年8月からはオンプレミス基盤のハードウェア老朽化に伴い「EverFlex from Hitachi」のリソースを増強している。

「EverFlex from Hitachi」の導入にあたり、三井住友海上あいおい生命保険では、オンプレミスやパブリッククラウド、同製品を総合的に比較。

「EverFlex from Hitachi」の場合は更改にかかる負荷を低減できることはもちろん、社内のデータセンターに機器を設置することで社内のルールやセキュリティポリシーを適用できる点、設置する機器は日立製作所の資産となるため、ハードウェアの故障時の交換、固定資産管理なども日立製作所に一任できる点などを高く評価したという。

システムの安定稼働、更改の準備にかかわる工数削減を両立

三井住友海上あいおい生命保険では、「EverFlex from Hitachi」導入以前から日立製作所の製品を複数導入している。古川氏は「日立製作所のITインフラ基盤を導入してから、トラブルが発生したことはありません」と明かす。

「自分達が本来注力すべき業務に専念できています。インフラは『動いて当たり前』と認識されがちだからこそ、安定稼働を保ってくれる点は助かります」(古川氏)

また菊地氏は「日立製作所の機器が故障することは非常にまれです」と付け加える。

「万が一故障した場合でも、日立製作所が独自の通報システムを介して障害を検知し、該当する製品を交換してくれるなど、プロアクティブに対応してくれています。そのため、日立製作所のサービスに対しては強い信頼感を持っています」(菊地氏)

「EverFlex from Hitachi」の導入プロセスは、データセンターに機器を新たに導入するときと大きく変わらない。しかし、従来の方法での機器調達ではなく、サービスとして利用するという新しいアプローチだからこそ、社内稟議の際にはきちんとした説明が必要になったという。ただ、サービス内容を十分に説明してからは、好意的な反応を得られたと古川氏は明かす。

同社では、基幹システムを除く自社サーバ領域のシステムを「EverFlex from Hitachi」の仮想化基盤へ集約するべく取り組みを進めている。これまで同社では、異なるメーカーのサーバが混在しており、整理・統合する必要があったためだ。この計画は2026年に完了する予定だ。すでに移行が完了したシステムのエンドユーザーは快適に利用しているという。

事業部門が管理するシステムも更改、効率的にセキュリティを強化

今後システムが「EverFlex from Hitachi」に集約されることで得られる効果について、MS&ADシステムズ 生保システム第一部 MSA基盤運用グループ デザイナーの満尾侑希氏は、次のように説明する。

「これまで、5年から6年ごとに訪れるシステム更改の準備に労力がかかっていました。具体的には、サーバの構成やスペックの見直し、必要に応じて大きな変更を加える作業が発生していました。しかし、システムを「EverFlex from Hitachi」に集約すれば、日立製作所が機器を管理してくれます。試算の結果、10年後には更改準



MS&ADシステムズ
生保システム第一部 MSA基盤運用グループ デザイナー
満尾 侑希 氏

備の工数が約半分以下になると期待しています」

もちろん「EverFlex from Hitachi」を導入していても、機器の老朽化は避けられない。しかし、古くなった機器の入れ替えは日立製作所が行い、新旧の機器を並行して利用する期間が発生しても管理を一任できる。こうしたサービスを受けた結果、三井住友海上あいおい生命保険ではDX推進やセキュリティ確保のための新たな試みに注力できている。

仮想マシンや業務システムといったソフトウェアの更改についても、アプリケーション側の更改を別途考える必要があったが、この点について菊地氏は次のように説明した。

「『EverFlex from Hitachi』導入の結果、ハードウェアとソフトウェアのライフサイクルを分けて考えることが可能になり、それぞれの更改に際して社内リソース確保が行いやすくなった印象を受けています」（菊地氏）

現在、三井住友海上あいおい生命保険にて「EverFlex from Hitachi」への移行が計画されているシステムは、情報システム部が管理するものを中心だ。しかし、事業部門が独自の予算で用意・運用しているシステムについても移行したいとの要望が

増えている。

「セキュリティ強化にも対応するために、システムの移行を求める声が上がっています。複数の部門が独自でクラウドの活用やサーバを設置して利用していますが、『EverFlex from Hitachi』を活用した、よりセキュアかつ効率的な運用形態を求めているのです」（古川氏）

今後もDXを推進しながら、「EverFlex from Hitachi」の活用領域を拡張していく方針の三井住友海上あいおい生命保険。満尾氏は「『EverFlex from Hitachi』の強みは、利用料金の平準化や機器のライフサイクル管理に寄り添っている点だと考えています。この強みを生かし、これからもユーザーに有益なサービスを提供し続けていきます」と決意を新たにす。

「『EverFlex from Hitachi』のように、柔軟な組み合わせができて従量課金型のサービスは、他に類を見ないと考えています。これから効率的にシステムを運用していくためにも、柔軟性、拡張性をさらに追求してほしいですね。システム管理の効率化によって、システム関係者としての私たちの地道な努力が報われることになると期待しています」（古川氏）



■他社商品名、商標などの引用に関する表示

EverFlexは、Hitachi Vantara LLCの商標または登録商標です。
その他記載の会社名、製品名などは、それぞれの会社の登録商標もしくは商標です。
製品・サービスの改良などにより予告なく記載されている仕様が変更になることがあります。

●お問い合わせ

株式会社 日立製作所 EverFlex from Hitachi マーケティング担当

E-mail : EverFlex_promotion@ml.itg.hitachi.co.jp

ソリューション紹介URL : <https://www.hitachi.co.jp/products/it/everflex/lp/everflex.html>
<https://www.hitachi.co.jp/products/it/everflex/index.html>